

山寺通信4月号

インターネットの利用者が投稿した動画が、誰でも視聴できるソーシャルメディアのユーチューブでわかりやすく用いているので臨場感があり、その視聴者が急激に伸びています。そこで現在世界中に広がっている抹茶ブームをユーチューブで調べてみました。それは当社においても茶筴の注文が以前に比べ1桁多く国内外から舞い込んでいるからです。普通のお茶も増えてはいますが、世界各国で抹茶への関心が増しています。数年前スターバックスが「ティーバナ」という世界のお茶を扱うカフェチェーンを、中国茶や日本茶等を扱うことで空白部分だった英国、東南アジアに広げる予定で買収しました。その時ティーバナのホームページを見たのですが、濃茶のように濃くした抹茶を茶碗の壁に塗り、それをかき落とすようにして飲んでいました。現在の抹茶ブームは、茶筴や茶杓を正しく使って飲む作法が広がっています。比較的広く知られているサイトが客観的な知識を科学的な考察の元にわかりやすく展開しています。動かないユーチューブですが、消費者にわかりやすい説明が書かれています。現在国産(奈良の高山産)茶筴は、生産方式が戦国時代の歴史的要因で生産量が限られているので、注文にお応えできるのは1年以上先になっています。中国製も熟練工しかできないことや熟練工が引退して増えることはないのだからかなりひっ迫しています。当社も2カ所の工房と契約していますが、中国国内に卸すものも最近強い引きがあるので、かなりの数量を仕入れています。増やすことは難しいです。茶筴は、侘茶(わびちゃ)の創始者とも言われる村田珠光の依頼により、鷹山民部丞入道宗砌(たかやまみんぶのじょうにゆうそうせつ)が作ったと伝えられています。



北宋の茶筴



YouTube の検索でこの2つのページを開いてください。

消費者に客観的かつ科学的な説明が読み取れます。下の文章は中国の茶筴の説明です

南宗には、審安老人が茶筴を「茶具図贊」の中に収録した。これは現在知られている最も確実な図像資料である。茶筴はこの外には現在宗遼
金元の絵画および墓室壁画中に見える。山西省長治市李村の沟金代墓の南壁東側の茶具図壁画中の茶筴は東部が円形になっており、現代日本に普及している茶筴の造形に似ている。

他にも、日本の文献「茶筴の一件」の中に「唐茶筴」と呼ばれる茶筴があり、その意味は中国式の茶筴である。それが中国の茶筴の実際の様式をどの程度反映したものであるのかは確定しがたいものの、少なくとも当時の日本人の目には、中国茶筴の直線的な造形と資料の記載は、より具体的性を帯びたものとして映っていたのである。